

CONTENTS

● 第10回 AMEI NAMMビジネスツアー	1	● メディアコンテンツ委員会セミナー報告	6
● AMEI/MMA合同のMIDI規格検討会議	2	● MIDI検定試験実施結果報告	7
● AMEI NAMMツアー参加者アンケート回答	3	● AMEI会員名簿・新入会員のご紹介・ 第11回通常総会と懇親会開催のお知らせ	8
● 特集Part2 著作権・ソフト委員会の諸活動	4・5		

第10回 AMEI NAMMビジネスツアー AMEI/MMA合同会議 開催報告



NAMMメイン会場正面



宿泊ホテル正面での全参加者



Disney Concert Hall正面での参加メンバー

MIDI規格委員会主催のNAMMビジネスツアーは、会員各社から毎年多数ご参加頂き、お陰さまで第10回目を迎えることができました。今回も、例年通り、会員会社、及び事務局を含め、計19名によるツアーとなりました。1月17日(水)に成田を出発し、4日間ショー会場を視察後、23日に予定通りに全員無事帰国しました。

NAMMショーは例年通り非常に盛況で、1月18日から21日までの4日間に涉り開催され、延べ入場者、84,695名、出展社、1,535社、出展国は100カ国以上と報道されています。展示会場は、メインホールAからE、及び2、3階、更に、隣接するMarriottホテルのフロアも含め、非常に広大で、総ての展示を見ることは現実的には不可能なほどです。特にこの2~3年のショーで目に付いた点の一つは、従来からのアコースティック楽器のジャンルでも、伝統の楽器のスタイルを継承しつつ、斬新なアイデアをうまく取り込んで、ユニークな音と斬新な演奏スタイルを求めて、新しい楽器を果敢にも提案している展示がいくつか目につきました。

会期中には、参加者は各自自由に、相互に情報交換をしつづ

場を視察しました。又MIDI規格委員会所属のスタッフは、米国MMAチームと3日間に亘る合同会議に参加し、多くの成果を得て、帰国しました。

<Disney Concert Hall見学>

AMEIビジネスツアーのコーディネイターである近畿日本ツアーの事前アレンジにより、同ホールの責任者の案内で、メインホールを始め、コントロールルーム、超大規模パイプオルガンの全貌とバックステージの関連機器、更に、各種機材等まで、約1時間強の時間をさいて、その独特な概観を誇る構造体の中に収められた、ノウハウの全てを、視察でき、次なるチャンスには、同ホールでの、生演奏を是非楽しみたいというのが、今回参加された皆さんの率直な意見でした。

又、これまでに参加された皆さん方からのご希望もあり、次回には、NAMMショー会場とは、別に、ハリウッド近辺の楽器小売店の視察を取り込む企画も実現したいと思います。ご期待下さい。

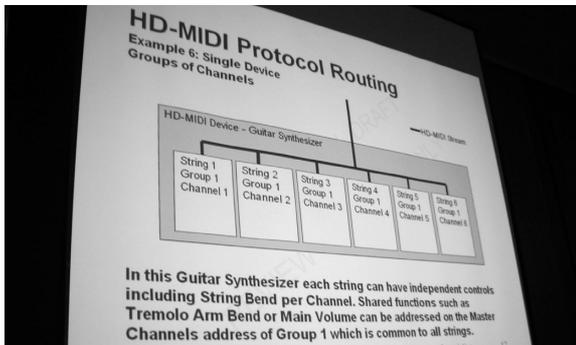
AMEI/MMA 合同のMIDI規格検討会議

1月19日（金）

AMEI及び米国MMA、両団体の永年の共通テーマである“MIDI規格”について、例年通りNAMMショー開催期間中の貴重な時間をさいて、出席者22名による合同会議が展示会場に隣接したMariottホテルの会議室で開催されました。特に今年は、多くの重要な課題を議論すべく、ショー2日目、金曜日の午前中から日米両国の全関係スタッフの参加のもと真剣な議論が夕刻まで続きました。

1月20日（土）

前日に引き続き、今回の主題テーマである、次世代MIDI規格に集中した議論が午前中からスタートしました。本テーマについては、早期具体化に向けて継続した議論が不可欠と判断され、今回議論された内容をベースとして、双方で更に詳細について検討し、次回は、来期早々4月開催を目処として、日米合同会議を東京で開催すること、それに向け双方で継続した検討をし、東京での会議に持ち込むことを約束して閉会しました。



主要議題のーコマ

1月21日（日）

<MMA総会の傍聴、及び合同会議への参加>

例年通り、MMA年次総会には、AMEI側も多数参加し、午前中の総会を傍聴しました。

午後からは、個別テーマの意見交換が行われ、事



AMEI/MMA合同会議



MMAスタッフとAMEIスタッフ（手前右側）

前に開かれた、合同会議の結果も踏まえて継続した議論が夕刻まで続きました。

本会議には、AMEI側から9名が参加し、次世代MIDI規格のまとめに向け、今後の検討・議論に関するロードマップも引かれ、3月の日本での合同会議、その後、春には日米中間地点等での継続した慎重な議論を踏まえて、出来る限り多くの参加企業からの叡智を結集して、今後長く、幅広い商品ジャンルで応用できる新たな規格とする。また将来に涉り長く活用できる規格を実現すべく、この後更に継続して効率良くポイントを絞った、関係メンバー諸氏による積極的な議論を呼びかけました。

更に、特筆すべき内容としては、今回の合同会議の場を活用して、AMEIから新たな提案という形でこの総会の場を借りて日本から持ち込んだ1台の試作携帯電話モデルによる実演の機会をもつことが出来ました。

今回のデモにより、モバイル自体を小型演奏楽器としての可能性を充分アピールでき、非常に大きな反響が得られました。

<AMEIツアー参加者によるライブデモ>

今回のツアーに参加された、業界では著名な“テルミンプレーヤー、井伊英理さん”が、皆さん良くご存知の、Moog社のブースで、連日ユニークなライブ演奏をご披露され、いつも通路いっぱいの人だかりで大変盛況でした。



Moog社ブースでテルミンをデモする井伊さん

AMEI NAMMツアー参加者アンケート回答

本ツアーをご利用され、アンケートをお寄せ頂いた10名の会員の回答をまとめた結果は以下のとおりです。

質問	回答	回答数
1) ツアー参加は、何方の判断でしょうか?	<ul style="list-style-type: none"> 自己申告 上司の指示を受けた 	5 5
2) ツアー料金について	<ul style="list-style-type: none"> 妥当、納得 安い 更に安い方が良い 	7 1 2
3) 日数については?	<ul style="list-style-type: none"> 妥当 回答なし 	7 3
4) オプションバスツアーについて	<ul style="list-style-type: none"> 非常に良かった、良かった Guitar Centerを見学したかった 時間的に余裕が欲しかった 	4 2 2
5) ホテルについて、満足した点	<ul style="list-style-type: none"> 全室禁煙だった、 レストランが至近距離に複数あった 部屋が広く清潔感があった 部屋でのネット環境が快適 	
6) ホテルについて、不満の点	<ul style="list-style-type: none"> 朝食メニューが連日同じだった NAMM会場までの移動が不便であった NAMM会場までがやや遠かった ホテル内にレストランが無かった 	
7) 改善提案	<ul style="list-style-type: none"> 会期中の1~2日は市場見学があると良い AMEIツアーグループとしての行動計画もあると良い ツアー参加者間で更に情報交換の機会を用意して欲しい 緊急連絡先が不明確だった 会場周辺の案内があると尚良かった 	
8) NAMMショーについて	<ul style="list-style-type: none"> 現在の担当業務に関連して、米国の状況が理解出来良かった NAMMショー専任のコーディネーターがいると更に良いと思う 	

MIDI規格委員会では、今回の上記のご意見も含め、旅行社の協力を得て、次回は更に魅力あるツアーとし、より多くの皆様のご期待に沿うべく新たな企画を進めます。

次回も是非多くの皆様のご参加を期待します。

本アンケートのご協力頂いた皆様方には、ご多忙の中、貴重なご意見をお寄せ頂き誠に有難うございました。

特集
Part2

著作権・ソフト委員会の諸活動

前号に引き続きAMEIとして、MIDI規格委員会と並ぶ位置づけである、著作権・ソフト委員会にスポットを当ててその活動をご紹介します。

◆ 著作権・ソフト委員会の活動について!



著作権・ソフト委員会 委員長 佐々木 隆一

AMEIにおける「著作権・ソフト委員会」活動の特色は異業種横断の組織でありながら、それぞれの立場を超えて音楽産業発展の基盤を担うという明確な目標を共有していることにあります。

またその活動においてはAMEIの会員企業のみならず、日本における音楽電子事業並びにネットワーク音楽配信事業全体に大きな影響力を持ちその範囲は文化庁や著作権仲介団体をはじめとする行政機関や音楽関連団体など極めて広い分野に及んでいます。

当委員会の構成は楽器・機器メーカー、業務用カラオケ事業者、モバイル関連事業者、音楽配信事業者、音楽ソフト企業など関連分野で活躍する主要企業を網羅していることでその特性を生かすことで業界における主導的な役割を担う源泉となっております。

主な活動としては1) 楽器・機器事業におけるコンテンツの利用や権利の保護が円滑に利用できることにより楽器産業と演奏者の利便性を確保すること。2) 業務用カラオケ産業における著作権の利用と権利処理が円滑に運営されることにより事業ならびにカラオケを通じて音楽文化に貢献すること。3) 着信メロディなどモバイルにおけるMIDIの活用と、モバイル&インターネットなど音楽配信事業を円滑に推進できる著作権利用環境の整備と著作権使用料等の具体的な権利処理ルールの整備を利用者団体の中核団体として責任を持って実現しているところです。

このような活動を担っている当委員会はAMEI参加企業の関連事業担当者や知財担当者からすると、自社のコンテンツ事業の権利処理問題全般を事業者側に有利な条件（決して権利者が不利になるという意味ではありません）で交渉を代行してくれることから、企業単独で強大な権限を持っている著作権管理団体と交渉することの不利益を考えると極めて強い味方であります。

自社に大きな利益や合理化をもたらす実利的な部分においても貢献できる活動になるという意味で当委員会の活動は重要な目的と使命を有しているといえます。

今後の活動の重要なテーマはデジタル技術やネットワーク技術が普及するユビキタス社会においてそれらの技術を利用する、新しいビジネスモデルに適応した新しい著作権処理ルールや著作権問題の解決にむけて、会員の要請をくみ上げ時代の進化にむけて権利者団体や著作権行政との交渉や協議のパイプをさらに強化することが必要となります。

また、AMEIは著作権管理事業法における「インタラクティブ配信」に関する利用者代表であるNMRCネットワーク音楽著作権連絡協議会の主要メンバーでもありまた、事務局を受託していることから日本の音楽電子事業（電子楽器）や音楽配信事業（カラオケ・モバイル・PC）の発展にさらに貢献することが期待されております。

◆ 音楽配信部会



著作権・ソフト委員会 音楽配信部会 部会長 袴 俊雄

会員の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私たちAMEIは、音楽著作権の指定管理事業者「日本音楽著作権協会（JASRAC）」との協議を司る「ネットワーク音楽著作権連絡協議会（NMRC）」の一員として、NMRC発足の1997年から10年にわたって中核となり推進してまいりました。加えてNMRC事務局という大役を受託して無事一年が経過しました。

これはひとえに音楽配信部会に参加頂いた会員皆様がAMEIの枠を超えて広く音楽事業に携わる事業者としての立場で、ご理解とご支援を頂けたからこそです。

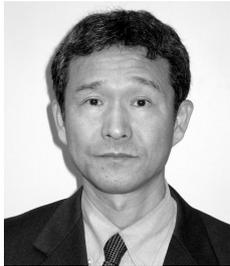
おかげ様で具体的成果としましても、平成18年度には新しい事業モデル「サブスクリプション」や「有期限ダウンロード」などの音楽著作権使用料の協議

に対応することができました。

今後も携帯電話キャリアとの協議など、音楽著作権を取り巻く新しい枠組みの協議に積極的に対応し、技術や通信インフラの進化に伴うルールや著作権問題をより良い方向で解決していく所存です。

一層のご支援ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

◆ カラオケ部会



著作権・ソフト委員会 カラオケ部会長 長谷川 篤

カラオケ部会は現在のAMEIが社団法人になる前の音楽電子産業協会時代に設立され、当時ネットワークの商業利用が未だ珍しい時にJASRACと業務用通信カラオケの使用料規程に関して平成9年9月の本合意に至るまで4年以上の間協議し、使用料規程について権利者団体との協議が可能であることを証し、取決めたとする経緯があります。このような歴史のある部会にて昨年10月より部会長を務めさせていただいており、責任の重さを実感している次第であります。

さて、当部会の意義は、AMEIが著作権等管理事業法下にて業務用通信カラオケ事業の利用者代表にもなっておりますので、企業間の利害を乗り越え業界全体が抱える共通の課題を解決し、業界が共存、発展していくための調整役を担う事と考えております。

現在は、「JASRACとの使用料規程の見直し」「管理団体からの管理除外曲の取扱について」「業務用通信カラオケ分野への新規参入団体との使用料規程の協議」等の課題をかかえており早期解決に取り組んでおります。

ここ数年カラオケ市場は縮小傾向にあり、まさしく企業間では各社戦略を駆使し限りある需要を獲得すべく戦っている状態です。業界としてはそれを打破し新市場を創造していかなければならない時期と考えます。当部会は、新たに登場するテクノロジー、次世代ネットワーク等を見据えながら、業界が新しいコンテンツを開発し又これまでとは違った新しい市場の形成のために、業界の一助となるべく努力して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

著作権・ソフト委員会		
委員長	佐々木隆一	
副委員長	袴 俊雄	戸叶司武郎
	古川 一夫	
カラオケ部会		
部会長	長谷川 篤	
音楽配信部会		
部会長	袴 俊雄	
ソフト規格部会		
部会長	原 正樹	

◆ ソフト規格部会



著作権・ソフト委員会 ソフト規格部会 部会長 原 正樹

ソフト規格部会では次の2点を基本的な活動方針としております。

1. マルチメディア・ソフトウエア・コンテンツを軸とした各種調査研究を通じ、MIDI・音楽電子事業の活性化・普及・標準化活動を行う。
2. インターネットなど進歩の著しいメディアにおける音楽電子事業への影響及び活用についての調査研究活動を行う。

現在は「電子楽器内蔵コンテンツ等の保護に関する検討WG (GCP-WG)」および「譜面や歌詞など視覚的表示を伴うMIDIデータのインタラクティブ配信に関するWG (DMN-WG)」の2つの専門ワーキンググループが設置され、そこで積極的な議論がなされております。

GCP-WGでは、電子楽器やソフトシンセサイザーなどに内蔵されている音色波形や各種パターンデータ、デモ曲などの著作権や著作隣接権などについて調査研究し、不正なデータの複製や配布などを防止するための施策について討議しております。

またDMN-WGではMIDI演奏データを電子楽器の液晶パネルなどで可視的に表示する場合の著作権問題について研究しております。今後はネットワークで配信される楽譜データとの関連についても検討して行きたいと考えております。

そのほかにも活動方針に則った新たな諸問題などあれば、幅広く取り上げて行きたいと考えておりますので、是非ご提案いただければと思います。

メディアコンテンツ委員会セミナー報告

メディアコンテンツ委員会 委員長 古山 俊一

昨年の12月14日にAMEIメディアコンテンツ委員会が主催するデジタルオーディオ関連のセミナーを開催しました。

毎年恒例となったセミナーであり今までもサラウンド制作や1ビットオーディオなどをテーマに開催してきましたが、今回は東京電機大学大学院教授で、又株式会社ダイマジックの代表取締役社長兼会長である浜田晴夫氏をお迎えして「コンパクトサラウンドシステムの最前線、高音質なサラウンドを手軽に」というテーマでのセミナーを開催しました。浜田先生は音響と人間の聴覚を音響情報研究室で長年研究されてきた方で大変興味深い内容でした。

株式会社ダイマジックは浜田先生の研究室の成果(特許、応用技術など)を応用して広く様々な分野の企業で活用するために7年前に設立された会社です。

またTLO(テクノロジー・ライセンス・オーガナイゼーション:技術移転機関)承認の第一号ベンチャーとしても有名な会社です。同ダイマジック社で開発された技術は携帯電話、ゲーム、簡易サラウンドオーディオシステム、更に、車や飛行機内でのオーディオシステムなどに既に広く活用されています。

セミナーは前半にダイマジック社の概要や様々な技術の解説をして頂きました。

ダイマジック社の技術はアクティブノイズコントロール(音響から不要なノイズを抜き取る技術)に活用される適応信号処理技術を更に積極的に良い音を作り出すことに活用できないかということの研究がそのスタートです。

最初に取り組んだテーマは2本のスピーカーで3D音響を実現するステレオダイポールテクノロジーです。この技術は数センチ間隔で2つのスピーカーを並べ、音波を干渉させることで仮想の音源をいくつも定位させることができます。又、音声信号の高速信号処理により、前後左右に複数のスピーカーを配置したような音響効果を生み出すことも出来ます。

現在ではさらにこの技術を発展させ、2チャンネルステレオから自然な5.1サラウンド音声信号を作り出す技術である「アダプティブサウンドAST」(注参照)により、原音にはないハーモニクスを作り出し、中高域ではハーモニクエンハンスにより音の輪郭をはっきり、クリアーにさせ、そのハーモニクスを原音にミックスすることで低音を知覚させる帯域拡大技術である「DBEX」技術など新しい技術を開発し、さらにダイマジック社の作り出した4つの技術(AST、DBEX、DVX、DSC)を総合的に組み合わせ多面的な活用を可能にした「EUPHONY」があります。

この技術は「EUPHONY Automobile」としてアルパイン社のカーナビのサラウンドシステムとして採用され、トヨタやダイハツの純正カーナビとなっています。又、2006年4月よりANAの国際線、国内線で音楽などの機内オーディオプログラムに、「EUPHONY ANA AUDIO」として導入されています。これにより飛行機機内でも快適な音楽を聴くことができるようになりました。

セミナーの後半では実際にデモプログラムを搭載した機器を試聴させて頂きました。

ダイマジック社によるデジタル技術を使った音響処理によるサラウンドを初めとする様々な効果は大変素晴らしく、参加した皆さんはスピーカーの前で頭を動かして動きのある音響を確認したり、携帯電話での立体音の効果(これも実に面白い)に驚いたり、長時間でしたが和やかな雰囲気の中で大変有意義な時間をすごしました。

(注)「アダプティブサウンドAST」は相関関係が強い音域ではセンターおよびフロント左右からの出力を強め、相関関係が弱い音域についてはリアとフロント、センターをほぼ均等に出力することで周囲から包み込むような音場を作る考え方です。



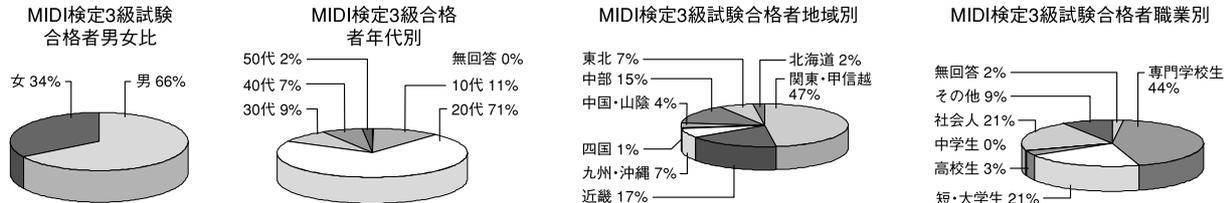
MIDI検定試験実施結果報告

主催：社団法人音楽電子事業協会 協力：日本シンセサイザー・プログラマー協会

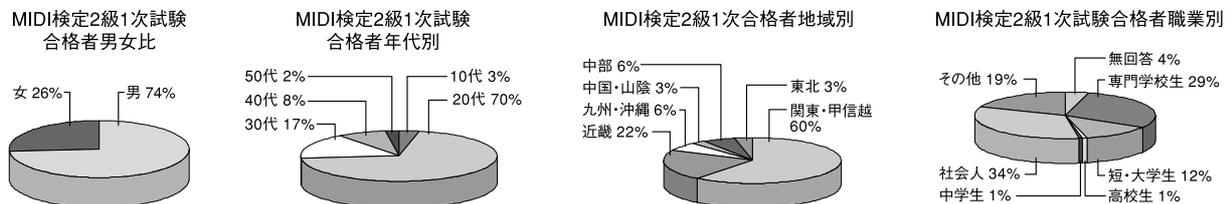
平成18年12月3日（日）全国71会場にて「第9回MIDI検定3級」「第8回MIDI検定2級1次（筆記）」を実施しました。

また同日、同一試験問題にて中華人民共和国においても「第3回MIDI検定試験3級」を8都市で実施しました。

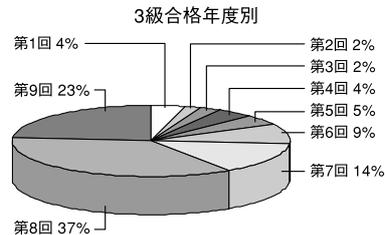
● 第9回MIDI検定3級試験合格者分析 受験申込者:1275名(うちWEBからの申込み362名)合格者:731名(合格率 57.33%)



● 第8回MIDI検定2級1次試験合格者分析 受験申込者:308名(うちWEBからの申込み107名)合格者:187名(合格率 60.77%)



● 第8回MIDI検定2級2次試験(平成19年2月実施)受験申込者の3級合格年度



中国におけるMIDI検定3級試験実施報告

(第3回 中国MIDI検定3級試験実施報告)

報告 中音公司 Liu Qiang Qiang

第3年目にあたる当年は、「Centermus U」と称して中国10都市でMIDI検定3級試験の教育と実習を実施しました。過去2年にわたる、マーケティングプロモーションと教育実習の結果、さらに多くの一般人や学生の間でMIDI検定試験が認知され、たくさんの方が受講されました。このような状況の下、今年も全国8都市でMIDI検定3級試験を実施しました。

これらの都市は、中国の主要都市であり、MIDI検定試験の認知度も他の都市より高いのです。3年目の今年も、合計144名が受験しました。

更に今年も、2級の中国版検定教科書も発行できました。近いうちに、このAMEI Newsで、中国MIDI検定2級試験実施報告ができることを楽しみにしています。

	第1回	第2回	第3回
試験日	2004/12/05	2005/12/04	2006/12/03
試験会場	全国5会場 北京 蘭州 温州 鄭州 天津	全国7会場 北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都	全国8会場 北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 青島
受験者数	112名	252名	144名
合格者数	87名	223名	129名
合格率	77.7 %	88.5 %	89.6 %



中国でのMIDI検定試験

会員名簿

50音順 2007年4月6日現在

あ	株式会社JVCエンタテインメント	株式会社BMB
アイデックス音楽総研株式会社	島村楽器株式会社	ふ
アップルコンピュータ株式会社	株式会社 JEUGIA	株式会社フェイス
い	学校法人尚美学園	株式会社フォーサイド・ドット・コム
株式会社インターネット	す	フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー
インフォコム株式会社	株式会社ズーム	株式会社フートレック
え	株式会社鈴木楽器製作所	へ
株式会社エクシング	せ	ベスタクス株式会社
NECエレクトロニクス株式会社	セイコーインスツル株式会社	ま
NTTコミュニケーションズ株式会社	株式会社セガ	松下電器産業株式会社
株式会社エムティーアイ	株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス	み
株式会社エンターブレイン	そ	有限会社ミュージカルプラン
お	ソニー株式会社	株式会社ミュージックネットワーク
沖電気工業株式会社	ソフトバンクモバイル株式会社	ミュージックノート株式会社
株式会社音響総合研究所	た	め
か	株式会社第一興商	株式会社メロディーズ アンド メモリーズ グローバル
カシオ計算機株式会社	株式会社タイトー	や
株式会社河合楽器製作所	株式会社ダイマジック	ヤマハ株式会社
き	株式会社タムラ製作所	財団法人ヤマハ音楽振興会
ギガネットワークス株式会社	て	ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社キューブ	ティアック株式会社	株式会社ヤマハミュージックメディア
く	と	ら
株式会社グリオ	東映ビデオ株式会社	株式会社ラグナヒルズ
クリプトン・フューチャー・メディア株式会社	株式会社ドワンゴ	り
クリムゾンテクノロジー株式会社	に	株式会社リットーミュージック
こ	ニフティ株式会社	株式会社リムショット
株式会社コピーライツ ビジョン	学校法人片柳学園 日本工学院専門学校・	ろ
株式会社コルグ	日本シンセサイザープログラマー協会	ローランド株式会社
さ	学校法人電子学園日本電子専門学校	〈以上、正会員会社69社〉
株式会社サイバード	の	
株式会社サミーネットワークス	ノキア・ジャパン株式会社	*賛助会員
し	は	中音公司 (中華人民共和国)
株式会社CTA	株式会社ハドソン	株式会社博秀工芸
株式会社シーミュージック	パナソニック モバイル コミュニケーションズ株式会社	株式会社ミュージックトレード社
株式会社JLS	び	〈賛助会員会社3社〉



新入会員のご紹介：

11月2日より株式会社ダイマジック様が入会されました。
同社は、『收音から再生まで音響信号処理技術を、様々なメーカーの製品へ提供しております』



新入会員のご紹介：

11月20日よりベスタクス株式会社様が入会されました。
同社から『今後、MIDI規格を再び展開していきますので、宜しくお願いします』

社団法人音楽電子事業協会

第11回通常総会と懇親会開催のお知らせ

日 時：平成19年5月10日 (木) 午後4時～
場 所：ホテルメトロポリタンエドモント2階「万里」
◇平成18年度 事業報告 収支決算報告
◇平成19年度 事業計画 (案) 収支予算 (案) 審議 他
懇親会：ホテルメトロポリタンエドモント3階「春琴」 午後6時～
(多数の会員の皆様のご参加をお待ちしております)

AMEI News Vol.2 (1996.9.25発行) 以来 広報委員会委員長として、AMEI Newsの編集にご協力いただいた、カシオ計算機株式会社 福田 誠氏が、2月20日同社を定年退職されました。同氏のAMEI発展のための著しい貢献に感謝いたします。また後任をカシオ計算機株式会社 高橋直樹氏が引継ぎますので、宜しくお願いいたします。

AMEI NEWS Vol.32 / 2007.4.6
社団法人音楽電子事業協会 機関誌
発 行：社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549
発行人：平野勝彦
編集人：高橋直樹 (広報委員会)
編集協力：株式会社 博秀工芸
ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>